

小室直樹・色摩力夫著「人にはなぜ教育が必要なのか」綜合法令出版 1997年11月25日刊を読む

1. (1)よい教育をするための条件として、教師のプライドがあげられます。どんなに月給が高くても、仮に能力があっても、プライドのない教師にロクな教育ができるわけがありません。
- (2)教師は、まず、生徒に規範(ことのよしあし)を教えるのですから、権<sup>オーソリテイ</sup>威(authority)がなければなりません。権威はプライドを必要とします。そのうえ、カリスマ性はあったほうがずっといいのです。
- (3)戦前の教師は、常人には思いも及ばないほど責任感が強く、<sup>そうれつ</sup>壮烈に責任を取ったからカリスマ性が生じたのです。そのころの教師は命がけでした。われらこそ、次代を担<sup>にな</sup>う日本国民の作り手であるとの気概に満ちていました。それゆえに、教師は聖職とされたのです。

P10

2. (1)留学中にサミュエルソン教授(アメリカの経済学者、1970年にノーベル経済学賞受賞)から聞いた話ですが、初期のハーヴァード大学には、設備も組織も何もありませんでしたが、最高の教育をしたそうです。そのころ、ハーヴァード大学で授業を受けた人は言ったそうです。  
「丸太のむこうの端に先生を座らせ、こっちの端にわたしを座らせれば、それが最高の大学である」と。
- (2)戦前日本の教育には、確固たる目的がありました。  
一つは、戦前の大日本帝国の国家イデオロギー。いわゆる忠君愛国の教育。この教育のためには教師は生命がけでした。もう一つの目的は、資本主義の育成でした。
- (3)こうははっきり言うと、オヤっと思う人が多いかもしれません。戦前の教育を賛美する人でも、それが資本主義教育であったとは思ってもみないでしょう。しかし、戦前の教育は、たぐいまれなほどみごとな資本主義教育でした。アジア、アフリカの後進諸国の中で、これほどみごとな資本主義教育を行った国はほかにありません。それが何より証拠に、戦前日本の義務教育で手本とし、理想的人物として第一に挙げられるのは誰かと考えてみるとよいと思います。
- (4)栗山<sup>せんぼう</sup>潜鋒(江戸中期の水戸学の学者)ではありません。浅見<sup>けいさい</sup>綱齋(江戸初期の朱子学者)でもありません。吉田<sup>しょういん</sup>松陰ですらありません。これらの人びとのイデオロギーが明治維新をつくったというのに、明治維新ができるときれいに忘れ去られてしまって、明治時代の小学校教科書のどこにも出てこなかったのです。みんな日本の義務教育とは無縁の人となりました。これは、ロシア革命後のソ連がマルクス、レーニンを抹殺し、人民革命後の中国が毛沢東を抹殺したような話です。まことに、奇妙<sup>きてれつ</sup>・奇天烈としか言いようがありません。
- (5)代わって義務教育のためのお手本として登場したのが二宮<sup>にのみや</sup>金次郎(二宮<sup>そんとく</sup>尊徳、江戸末期の農政家)でした。

### 3. 「二宮金次郎」を目指した戦前の教育理念

- (1) 戦前、戦中の教育を受けた人で、二宮金次郎を知らない人はありますまい。手本は二宮金次郎！どこの小学校にも、この人の銅像が立っていました。この人の言行は、くり返し教えられ、歌にもなりました。
- (2) 二宮金次郎の徳行を簡単に言いますと、節制、節約、勤勉、正直、誠実、正義、中庸<sup>ちゆうよう</sup>、純潔、謙譲……と列挙してきたら、誰しもフランクリンを思い出すことでしょう。代表的資本主義者として、マックス・ヴェーバーもとくに取りあげているフランクリンは、このような徳目をとくに強調したのですが、それらは、資本主義を担うパーソナリティとして、格別、肝要であるからです。
- (3) 禁欲的プロテスタンティズムによる資本主義の精神は、その系<sup>コクリ-</sup>(必然の結果)として、右のような諸徳目を生みました。これらの諸徳目を身につけたフランクリンのような人びとが、資本主義をつくり、推進し、完成させたのでした。
- (4) 二宮金次郎こそ、これらの諸徳目の権化<sup>ごんげ</sup>でした。資本主義の精神が人格化したような人物です。二宮金次郎ほど、戦前の日本の義務教育にしばしば出てくる人物はほかにいません。では二位は誰かと言われれば、みんな首をかしげることでしょう。二宮金次郎の銅像はどの小学校にもありましたが、彼以外の銅像となると？それほどまでに二宮金次郎が理想的人間像だったのでした。義務教育の目的は、彼のような人物をつくることにありました。

### 4. (1)では、この二宮金次郎は、どのような人物だったのでしょうか。

右の諸徳目からも明白なように、禁欲的プロテスタンティズムそのもののような人です。フランクリンがこの人に会ったら、感嘆して、これほどまでの人物が現存したかと、神に感謝するに違いありません。

- (2) 二宮金次郎が資本主義の精神そのものであるという理由は、労働こそが救済<sup>サグエーション</sup>そのものだとしたことです。収入を得て生活ができるようになるというのは、いわば労働の副産物であって、労働そのものが目的です。労働さえしていれば、他に宗教的儀礼をしなくても、救済される。つまり労働こそが宗教儀礼である。労働のほかに秘跡<sup>サクラメント</sup>なし。ここがポイントです。
- (3) このことを二宮金次郎は身をもって示した。そして二宮金次郎を手本にした義務教育で日本の子供たちは育てていったのでした。

### 5. 本当の学問とは何かを教えた二宮金次郎

- (1) 節約、勤勉のほかに、二宮金次郎が教えたもうひとつの徳目は「好学」でした。銅像にしても何にしても、二宮金次郎はいつも本を読んでいます。学者が調べたところによると、あの本は『大学』なのですが、最低生活もできるかできないかギリギリの労働者が、なんでそんなに難しい本を読む必要があったのでしょう。なんの必要もないのです。
- (2) 日本に「科挙<sup>かきよ</sup>(中国で行われた高級官僚登用試験)」はありませんから、どんなに勉強したとて出世するわけではありません。儒教の古典を勉強したという理由で農民が武士にとりたてられたという例もありません。
- (3) 彼にとって学問をすること自体が目的だったのでした。二宮金次郎が尊敬される所以<sup>ゆえん</sup>です。受験勉強のためではありません。ここがポイントです。

- (4) 受験の弊害については後ほど科挙の歴史をとおして述べますが、学問は受験のためにやるのではない、立身出世とも関係ない、「学問それ自身が目的なんだ」ということを二宮金次郎は身をもって教えてくれたのです。
- (5) このように、戦前の教育にはしっかりした目的がありました。
- (6) ひとつには、富国強兵。国を富まし国防をしっかりしないと、日本は欧米諸国の奴隷になってしまう。これだけは、どうしても嫌だ。それには、まず不平等条約を改正しなければならない。強い軍隊をつくらなければならない。究極的には、資本主義にならなければならない。そう考えたのでした。
- (7) そのためには、国民形成をしなければならぬ。つまり、「わたしは日本国民である」との同一化アイデンティフィケーション(identification)がなされなければならないのです。そうしていわゆる「忠君愛国」の思想が、教育の中心となったのでした。
- (8) それにもうひとつ、資本主義教育。これが、二宮金次郎に凝縮ぎょうしゆくしていることは、すでに論じました。
- (9) このように、戦前の日本の義務教育には、ゆるぎなき教育目的があったのです。これが最大のポイントです。教師も父母も、この目的のために教育が行われるのであるということを、はっきり認識していました。このことはさらに重大なポイントです。

## 6. アメリカ式教育とは

- (1) 人種、宗教、習慣、風俗などを異にする人びとを、アメリカという坩堝るつぼに投入して、アメリカ人をつくる。ここにアメリカ教育の確固たる目的があります。そして社会化のための努力は、ここに集中されています。
- (2) はじめは、誰とでもコミュニケーションができるようにすること。さらに重大なことは、アメリカ人としての誇りを持たせること。アメリカ史における栄光と名誉とが強調されます。暗黒の部分は教えません。そんなことは、大人になってから知ればいいことです。よい兵士になることも教えます。このよきアメリカ合衆国を守りましょう、と。
- (3) 徳目としては、やはり禁欲的プロテスタントのそれが中心です。
- (4) 「自由」と「平等」をも教えます。しかし、なんとといっても、何百年「リベラリズム」と「デモクラシー」の歴史をふまえてのことです。自由、平等の理解は日本とは違います。
- (5) もし、日本が、アメリカ式教育を行ったとすれば、それは戦前です。二宮金次郎に代表される諸徳目こそ、まさに禁欲的プロテスタントの諸徳目です。フランクリンが、とくに強調していることではありませんか。資本主義の精神の系コネクト(必然的に出てくるもの)としての諸徳目ではないでしょうか。
- (6) このように、戦前の日本は、アメリカ式教育を行っていたのですが、それを否定したのがアメリカ占領軍でした。ロシア人がレーニン像を引きたおしたように、アメリカ人は、二宮金次郎像を各小学校で引きたおしました。この人を全面否定したのです。それとともに、節約、勤勉、正直、中庸、純潔などの禁欲的プロテスタント的美徳も、日本の教育から姿を消しました。行きついた果てが、今の教育です。
- (7) その代わりに占領軍は、「日本の過去は罪の歴史である」という歴史観を強制しました。これだけでも、アメリカ式教育とは正反対であることは明白でしょう。

(8)歴史こそ民族としての同アイデンティティ一化の根本である。このことこそ、近代国家がその形成過程においてなした最大の大発見であり、鉄則なのです。歴史を抹殺された国民は、生きようがありません。滅亡あるのみです。

P13 ~ P21

#### <コメント>

「人にはなぜ教育が必要なのか」日本の教育の原点、日本資本主義の原点は二宮尊徳にあります。「積小為大、小さいものを自己責任、自助努力でコツコツ積み上げ、大を為す、志を為し遂げる」これこそが、日本の教育の原点。日本資本主義の原点。大切なものとして守っていきたいと思います。

2024年12月27日（金）